

地域づくり活動 NPO 事業助成（連携重視）事業 実績報告

団体名	プラットフォーム淡路島	代表者名	代表 清水 昭夫
事業名	プラットフォーム淡路島 連携・協働を強化し、喫緊の地域課題を深化させる事業		

<事業実施実績>

年 月 日	活 動 内 容
定例会 (約1.5か月に 1回・調整の上)	企画運営会議の開催（洲本総合庁舎会議室）6/3(7名・総会兼ねる)・ 7/14(11名+1名)・8/7(7名+2名)・9/9(7名+1名)・10/8(10名+1名)・ 1/18(9名+1名)・2/6(シンポジウム後・7名)・3/3(6名+2名)
2020年 6月 3日	総会(企画運営会議を兼ねる)の開催
11月29日	シンポジウム「移住と島の暮らしを考えるPart II」 洲本市文化体育館・参加者：35名 話題提供・富田祐介（洲本市）（株）シマトワークス代表取締役（3名） 藤本沙紀（洲本市）フリーライター・フリーランス 末澤輝之（洲本市五色町）（株）脱サラファクトリー代表取締役 コーディネーター・野崎隆一(NPO法人神戸まちづくり研究所理事長) パネリスト・富田祐介・藤本沙紀・末澤輝之 赤松清子（洲本市）：NPO法人あわじFANクラブ事務局長（4名） 講評・まとめ・山口一史(ひょうご・まち・くらし研究所)以上2名
2021年 2月 6日	「災害と災害時要配慮者」対応をかんがえよう！！～備える・学ぶ・ つながる～」の開催 話題提供とワークショップ・洲本市文化体育館・参加者・41名 話題提供・講義：松山雅洋 神戸学院大学現代社会学部教授 ワークショップ：高橋実芳子 NPO法人兵庫県防災士会理事長(講師2名) まとめ：夙 保憲 共催者代表 淡路市社会福祉協議会：事務局長
3月11日	「あわじ地域づくり活動交流会」に出席 地域づくり活動応援事業(6団体)の報告 洲本総合庁舎3階A・B会議室・参加者28名 連携先・淡路県民局・こころ豊かな美しい淡路推進会議

<効果と成果>

地域の課題は多様である。「地域や現状が良くなってほしい」「現状のままでは衰退してしまう」「将来も安心して暮らしたい」「後世に残したい」…、それぞれに時間軸を持ち、切実で、良識や優しさに基づく課題ばかりである。淡路地域においては①少子高齢化に伴う人口減少と②南海トラフの災害への対処が課題である。このふたつを課題とし、篩い分けし、取り組むこととした。①既に多くの移住者（ワーケーションで働く人も）が暮らすが、在住者には見えにくい存在である。人口維持の方策として移住者に今後も求めることは多い。その観点から移住者の声を聞き、暮らしにおいて息苦しい部分にも光を当て、発信できた。②南海トラフ地震だけではなく、豪雨・浸水・土砂崩壊で孤立するケースも多くなる中に要配慮者がいて、日頃の付き合いや言葉掛けが普段となる近所づきあいが基本であり、「お互いさま」の精神が必要であると考えられた。自助が強調され、公助・共助の危うさも見えた。地域づくりは地域のためだけでなく、個人ひとりひとりのためでもあると感じた。

<収支決算書>

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動 NPO 事業助成金	500,000
自己資金	37,936
合 計	537,936

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち助成対象金額 (円)
直接経費	人件費	40,000	27,000
	謝金	185,000	185,000
	旅費交通費	178,170	178,000
	その他 (会場費 他)	96,327	90,000
	小 計	499,497	480,000
	間接経費 (一般管理費)	38,439	20,000
	合 計	537,936	500,000